

第2期産業振興計画実行3年半の取り組みに対する
評価と「さらなる挑戦」に対する意見について
(専門部会等報告)

1 農業部会	1
2 林業部会	2
3 水産業部会	3
4 商工業部会	4
5 観光部会	5
6 連携テーマ部会	6

○農業部会報告(産業成長戦略／農業分野)

1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

農業分野では、実行3年半の、生産性の向上・販路開拓・新規就農者確保の取り組み等により、高齢化等によって農家戸数が減少する中、農業産出額を一定維持できており、評価できる。

<主な意見>

- ・ ブランド化が大切。高知の野菜は、IPM、土着天敵農法ですごい、といったイメージを全国に発信するののも一つのブランド作り。ブランド価値が高まり、高く売れると生産者も潤い、生産の増につながるの、すごく大事なこと。
- ・ 土佐あかうしは、非常に評価が高まっており、今後、増頭をどんどん進めてもらいたい。
- ・ 鶏肉は国内でライバルが多い。はちきん地鶏、土佐ジローについて、飼い方による肉質の違いなど、消費者に突き刺さるような飼い方の研究をしてブランド化してほしい。
- ・ 集落営農組織や JA 出資型法人が増えてきた。複合経営化など経営を成り立たせていく産業政策と、地域の農地を守っていく地域政策の両輪で施策を推進してほしい。
- ・ 本格的に年数をかけて担い手確保対策に取り組んできて、新規就農者が増え、Iターンも増えている。これからは、定着率についても、着目する必要がある。特に中山間では、生活や集落に馴染むかなど経営以外の要素もある。

2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

<主な意見>

- ・ 新規就農者の就農先の確保や、次世代型こうち新施設園芸システムを進める上でも、全体の計画の中で農地の確保が大きな課題であり、これを解決しなければ元も子もないのではないか。ここに知恵と資源を集中していかなければならない。
- ・ 家族経営体を取り巻く環境は昔から比べて厳しくなっている。暮らしが成り立っていく家族経営体にするには、どこをどのように強化したら良いのか、丁寧に説明していく必要がある。
- ・ 産地では労働力の確保が大きな課題。農家数が減る中、規模を維持するためには規模拡大が必要だが、そのためには労働力が必要になってくる。外国人労働者の受け入れなども含めた対応の検討が必要。
- ・ 第3期計画では、TPPの目鼻が見えていると思う。特に、米、畜産などで影響が出てくると思うので、県の支援、対策をきちっとしていただきたい。

○林業部会報告(産業成長戦略／林業分野)

1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

林業分野では、実行3年半の取り組みにより、木質バイオマス発電所など原木の需要先が拡大したことで、原木の生産量が相当伸びており、十分に評価できる。

<主な意見>

- ・ (厳しい環境の中で)全体的には成果は上がっている。目標数値には届いていないものもあるが、十分に評価できると思う。
- ・ 原木生産量が増える中で、現場で作業されている方が「変わった」というような実感を持てるようなPRができれば、働いている方の達成感にもつながっていくのではないか。
- ・ 原木の受け入れ先ができて、材価が安定してきたのは大きな成果である。
- ・ 森林経営計画の策定が原木増産にどう寄与しているかということや、緑の雇用の定着率を上げていくには何に取り組まなければならないかなどの分析を行いながら、掘り下げて手を打っていかなければならない。

2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、この方向性で進めることについて異議はなく、次回の専門部会で具体的な協議をすることになった。

<主な意見>

- ・ 担い手対策については、相当の発想の転換をしていかないと、現状を確保するだけでも容易ではないと思っている。自然の中で働きたいと思っている都会の若者に対する働き掛けをするべきではないか。
- ・ 山の整備には担い手が必要で、担い手が生活できるには、木材の消費が増えることが必要と思っている。それには木の家が良いと思う価値観を、幼少期から教育することが大事。森林と木を使う関係がつながっていることをアピールできるような取り組みを。
- ・ さらに原木生産量を増やしていくには、いくら出すかということを相当計画していかなければならない。県内の需要量を把握したうえで、県外にスムーズに出していくことが大事。ある程度行政が誘導していかないとうまくいかないと思うので、需要と供給とを調整する会が必要ではないか。今のところは増産しているので問題ないが、今後需給調整がスムーズにいかなくなるのではと心配している。
- ・ 新築は伸びない中で、リフォームなどにこれからどう使っていくかを模索していかなければならない。
- ・ 育林から木材利用までの林業全体を束ねる戦略として、それぞれの関係が分かる「ロードマップ」を示すことが必要ではないか。

○水産業部会報告(産業成長戦略／水産業分野)

1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

水産業分野では実行3年半の取り組みについては、クロマグロ養殖業の振興や水産加工業の拡大、新たな外商活動の推進などで成果が出てきており、H27年の目標としている沿岸漁業生産額370億円以上や水産加工出荷額170億円以上は達成可能と見込まれることから、水産業部会はこれまでの取り組みを評価し、今後の取り組みのさらなる推進を期待する。

<主な意見>

- ・ 活餌の供給基地化は非常に重要な取り組みなので、本格的に基地化できるように今後とも取り組んでほしい。
- ・ マグロの養殖はまだ拡大できる見込みがあるので、今後とも力を入れて取り組んでほしい。
- ・ 「さかな屋 高知家」を拠点に首都圏での外商活動に取り組んでいるが、お客さんの反応は非常によく可能性を感じるので、引き続き協力をお願いしたい。
- ・ 滞在型・体験型観光は、それぞれの地域の特徴が活きるような仕組みを漁協ともタイアップしながら検討してほしい。

2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

<主な意見>

- ・ 売り先はものさえあればいくらでもあるので、持続的に生産量を伸ばしていける体制づくりが一番大きな課題である。
- ・ メジカの関連産業が抱えている課題はこの資料に整理されている通りで課題山積であるが、県とも連携をしながらこの産業が続いていくような体制づくりに努めていきたい。
- ・ 漁業生産現場への法人等の参入は、地域での合意形成が重要だと思うが、時代が変わってきており、検討すべき課題である。地域ごとの特性が活きる一番良い方法を模索して、次の時代に合う形にしていければと思う。
- ・ 漁業生産現場への法人等の参入は、重要な視点だと思う。これからの漁業の就業スタイルは、獲るだけではなく、加工するなどの陸の仕事も含めた形も必要だと思う。そうすれば漁に行かない時や魚が獲れない時の収入にもなるし、漁業を引退した後の働き口にもなり、若い人も集まりやすいのではないか。これからの漁業には必要な方向性なので、県がモデルケースを作ってくれることを期待している。
- ・ 漁具や漁獲物へのサメやフグの被害対策などは漁業者だけでは対処が難しいので、県の支援が必要である。
- ・ 拠点市場への集約は荷捌きや入札方法などの検討課題はあるが、荷も集まり物流もシンプルになるので、商人は集まると思う。また、競争原理が働いて漁業者の所得向上にもつながるので進めるべきである。

○商工業部会報告(産業成長戦略／商工業分野)

1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

商工業分野では、ものづくりの相談体制や製品開発への支援策の充実をはじめ、一貫支援の体制が構築され、地産や外商の取り組みのほか、拡大再生産の動きも進展している。

コンテンツ産業では、ゲーム関連会社で県内での起業や首都圏からの立地により、新規雇用者も生まれ、集積の土台ができてきた。県内企業との事業連携や外商を進めている。

平成27年の製造品出荷額等の目標額もH25年には既に達成しており、評価できる。

<主な意見>

- ・ 産学官連携によるファインバブルなどの事業化の実現や防災関連製品の販売額の増加等、成果は出ている。
- ・ 紙産業技術センターでは、新たな機械の導入を進めているところであり、高付加価値製品の開発や加工技術の確立に向けた今後の取り組みに期待している。
- ・ 商店街の活性化施策については、チャレンジショップや空き店舗対策等の取り組みが個店の魅力アップや賑わいの創出につながっている。
- ・ コンテンツ産業では商工労働部や産業振興センターともっと連携を図り、取り組みを進めるべき。
- ・ ゲーム業界などコンテンツの業界について、現状や今後の成長性など保護者を含め、県内の若者にしっかりと説明していくべき。

2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で具体的な施策について協議することとした。

<主な意見>

- ・ 海外展開や全国に通用する製品づくりを行い、ビジネスとして成立させていくためには、大手との原価の差をどう埋めるか、付加価値をどう生み出すのか等の製品ごとの戦略が必要。
- ・ 商店街の活性化においては、移住促進やコンテンツの活用など、他の取り組みと連携して相乗効果が上がるよう、部局を超えた取り組みが必要。
- ・ 商店街の活性化にとって行きつくところは個店の魅力。今まで以上に業種転換やM&Aにより個店の魅力アップをしていくことが必要。県からの支援も継続してほしい。
- ・ 高校生の県内就職の促進にあたっては、保護者、教員に県内企業の魅力や現状を知ってもらうことが必要であり、教育委員会のさらなる取り組みを期待する。
- ・ UIターンの促進には、豊かな自然や美味しい食べ物など、給与面よりも生活の充実度を前面に出して、豊かなライフスタイルが送れる本県魅力をアピールする必要がある。

○観光部会報告(産業成長戦略／観光分野)

1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

観光分野では、実行3年半の取り組みにより、県外観光客入込数は平成25年、平成26年と2年連続で400万人以上を達成し、観光総消費額も平成24年から3年連続で1000億円を超え、平成25年には4年後の目標である1100億円を上回る1102億円となるなど、目標達成に向け各々の取り組みの成果があらわれているものと評価できる。

<主な意見>

(総論について)

- ・ 分野ごとの分析が進んでいると感じる。今後はインバウンドとアウトドアの整備など横断的な取り組みが必要。

(国際観光について)

- ・ 外国人観光客がどこから来て何をしに来たかなどの動向を把握することで、次のステップに進むことが必要。
- ・ 受入整備の補助金により、インバウンド環境が進むことを期待しているが、まずは事業者がやる気にならなければならない。まだまだ外国人客は少ないが、クルーズ船が入港した時が必要を一番実感しやすいので、これを契機にまずは中心市街地で成功事例を作るべき。

2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、この方向性で進めることについて異議はなく、戦略や具体的な施策については、次の専門部会で協議することとした。

<主な意見>

(歴史を中心とした観光資源の磨き上げについて)

- ・ 観光客はストーリーを求めて旅をしている。高知ならではのストーリーをいかに作り出せるか。他県との違いを出す工夫が必要になってくる。
- ・ 歴史と関係のある「食」(例：龍馬とシャモ鍋、慎太郎とユズ)が食べられるなどの連携ができればよい。
- ・ 司馬遼太郎をはじめ多くの高知の偉人が小説化されているので、例えば書店とタイアップしたプロモーションなどの展開を検討してはどうか。

(アウトドア観光について)

- ・ 高知県はアウトドアに恵まれた環境があるので、有名アウトドアブランドと組むのが良いのではないかと。新製品や高級品のテストモニタープランは欧米人が好むのではないかと。
- ・ 高知には良い山もあり、遍路文化もあるのでトレッキングも可能性があると思う。

(国際観光について)

- ・ 宿泊施設や飲食店でのWi-Fi整備は必ずすべきだが、すべての観光地に必要かというところではないという話もある。「点」ではなく「面」の整備を徹底するという考え方もある。また、Wi-Fi整備に合わせてその土地ならではの情報を発信するコンテンツの開発も必要。

(その他)

- ・ 貸切バスの新運賃制度が本格開始したことに伴い、バスだけでなくJRや飛行機で来高した団体客向けの個人旅行商品づくりが必要。

○連携テーマ部会報告

1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

◆産学官連携による力強い産業の礎を築く

- ・ ココプラと産業振興センターの役割分担が少し分かりにくいので、両者の間にグレーゾーンができないよう、つなぎをフォローしていただきたい。また、ココプラだけの話ではないが、成果が外部から分かれば、「私も相談に行こう」と思ってもらえると思う。広報の仕方を検討して、知っていただく努力をお願いしたい。

◆中山間の暮らしを支える産業づくり

- ・ 集落活動センターができて3年だが、2~3年はそれなりにできて、ここから130箇所にし、それを継続していくのは、これまでの3年よりずっと難しい。

◆産業人材の育成・確保

- ・ 高知の産業に関する教育は、全国からも注目されているが、こういう色々な分野の研修が取りまとめられたMBAのパフレットも他県にはない。
- ・ 観光の広域観光みらい会議に日本旅行が来て、宣伝効果が出たのは大変良かった。観光をはじめとして高知には資源はある。それに魅力ある付加価値の付け方を一緒に考えてやって欲しい。

2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

◆中山間の暮らしを支える産業づくり

- ・ たとえば、森のオーナー制度のように、集落活動センターのオーナー制度をつくってはどうか。ずっと、というと企業も引くと思うので、期間限定で徹底して、企業の得意な部分と地域の特性をいかして商品等を作っていくといい。そうすれば、観光の拠点にもなってくると思う。
- ・ 集落活動センターと企業とのパイプをつくってあげればいい。自分の会社でも、土佐山アカデミーで研修させているが、社員研修だけでも、100人単位で高知へ来ている。こうして都市と地域の行き来する中で、Uターン・Iターンも考えてくれるようになると思う。

◆産業人材の育成・確保

- ・ 1を3や5にする教育が今までの教育のベースだったが、ゼロから1のところ課題。このための手法に「アイデアソン・ハッカソン」がある。アイデアソンを実施して、企業からも「若手の人材育成として非常に良かった。勉強する場はあるが、真剣に知恵を出し合って作っていく場はなかった。」とのご意見をいただいた。

良いアイデアが出たら、現実的に商品化していく、産業につながっていくようなゼロから1の仕掛けが大事。自分が発案したものが形になっていく、それを自分で形にするために高知で就職したいという形になる。ゼロから1を作って、それが教育にもなっていて、若者が能動的に動いていく仕掛け、というものも一緒に考えていけるといい。